別記第1号様式（第7関係）

会　議　録

附属機関又は会議体の名称		令和７年度 第５回教育に関する事務の点検・評価委員会
事務局（担当課）		庶務課
開　催　日　時		令和８年２月４日（水）午後６時００分～午後８時００分
開　催　場　所		豊島区役所８階　教育委員会室
議　　題		令和７年度教育に関する事務の点検・評価報告について
公開の可否	会　議	■公開　□非公開　□一部非公開　　傍聴人数　０　人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	■公開　□非公開　□一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委　員（敬称略）	宮澤　晴彦 伊東　哲 北川　英惠
	その他	教育長、教育部長、学務課長、学校施設課長、指導課長、学校支援担当課長、教育センター所長
	事務局	庶務課長

審 議 経 過

発 言 要 旨

1. 開会

2. 議事

（1）令和7年度教育に関する事務の点検・評価報告について

令和7年度教育に関する事務の点検・評価結果について、宮澤委員長より説明があった。趣旨は以下の通り。

①安全・安心事業

・必要性・有効性：A

施設面について、かなり充実してきている部分が、評価の大きなウェイトとなった。

・効率性・適正性：B

特に防犯カメラを含めたインフラ環境や実技的な研修等については評価できる。しかし、危機管理意識に関する部分でリスクマネージメント等のソフト面をより充実させていく必要がある。様々な事故が起こっている中、研修の内容面でさらなる充実を図っていただきたい。これまでのセーフスクールも生かしながら、その良さを十分伸ばしていってもらいたい。

②コミュニティ・スクールの推進事業

・必要性、有効性：B

来年度から行う全校でのコミュニティ・スクール化は、時代の要請に応える大変重要な事業であり、学校経営を地域全体で支えるという側面を大事にしている点を評価した。また、これまでの ISS 等、独自に進めてきた地域との良好な関係をさらに活かしていくことを期待して B 評価とした。来年度全校導入のため、導入後もしっかりフォローしてほしい。

・効率性、適正性：B

ガイドライン改定が年末に全校に示され、4 月のスタートに向けて確実に動き始めているとのことだが、このガイドラインが活かされるかが問題である。コミュニティ・スクールの意義を各学校も十分理解した上で、各校の特色に応じて、学校が主体的に進めていくような事業になるよう、教育委員会の方でフォローしていってもらいたい。

③「確かな学力」育成事業

・必要性・有効性：A

秋田県能代市との連携も含め、様々な中からプライマリースクール事業等を積極的に行っている部分が評価できる。

・効率性・適正性：B

能代市との教育連携が長年続いているのは良いが、その成果をもう一度振り返る必要があるのではないか。今後、能代市の小中連携をどう活かしていくのか、もう一度検討が必要である。

④日本語指導事業

・必要性・有効性：A

様々な国籍の児童・生徒が増加している中で、独自に様々な取組みを行っている点が評価できる。指導員を巡回にして児童・生徒が通わなくて済むようになったことや、学校との連携がうまく図られたというように取組が成果に繋がっている面が見られた。今後さらに多くの言語・国籍の方が入ってきた場合、どう対応していくか、更なる研修が望まれる。

・効率性・適正性：A

VLP 等をもう少し広く周知して、もっと活かして進めてほしいという要望もある。ただ、取組の効率性・適正性としては、委員会の質疑の中でもよくやっていると理解できた。

⑤学校施設改善交付金対象事業
・必要性・有効性：A
学校施設改善交付金事業自体は様々な面で活かしているため、A 評価としている。
・効率性・適正性：B
補助金が交付されなかったものや入札不調等があり、それに対応しながら進めているが、さらに大切にしていってほしい。
また、そもそもこの交付金対象事業のみを抽出して、ここで点検・評価をすることは適切か。狭い部分に焦点化せず、学校環境改善という広い視点で捉えた評価を行うとともに、客観的な立場から検証するためには、もう少しデータを示してほしい。

3．閉会

提出された資料等	令和 7 年度教育に関する事務の点検・評価報告書